



システムレベル高可用性

この章では、Cisco NX-OS の高可用性 (HA) システムおよびアプリケーションの再起動操作について説明します。この章の内容は次のとおりです：

- [Cisco NX-OS システムレベルの高可用性について \(1 ページ\)](#)
- [物理的な冗長化 \(2 ページ\)](#)
- [ファブリック モジュールとライン カードの互換性 \(11 ページ\)](#)
- [スーパーバイザの再起動とスイッチオーバー \(12 ページ\)](#)
- [HA ステータス情報の表示 \(19 ページ\)](#)
- [システム レベル高可用性に関する追加情報 \(21 ページ\)](#)

Cisco NX-OS システムレベルの高可用性について

Cisco NX-OS システムレベルの HA は、ハードウェアまたはソフトウェアの障害の影響を軽減し、次の機能によってサポートされます。

- 冗長ハードウェア コンポーネント：
 - 電源装置
 - ファントレイ (Cisco Nexus 9500 および 9800 プラットフォームのみ) またはモジュール (Cisco Nexus 9200/9300/9300-EX/9300-FX/9800-LC)
 - スイッチ ファブリック (Cisco Nexus 9504、9508、および 9516 シャーシのみ。そして、Cisco Nexus 9800 も含む)
 - システム コントローラ (Cisco Nexus 9504、9508、および 9516 シャーシのみ)
 - スーパーバイザ (Cisco Nexus 9808、9504、9508、および 9516 シャーシのみ)
- 物理要件と冗長ハードウェア コンポーネントの詳細については、特定の Cisco Nexus 9000 シリーズ シャーシの [『ハードウェア設置ガイド』](#) を参照してください。
- HA ソフトウェアの機能：

物理的な冗長化

- インサービス ソフトウェア アップグレード (ISSU) : 中断のないアップグレードの設定と実行の詳細については、[ISSU および高可用性](#) および『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Software Upgrade and Downgrade Guide』を参照してください。
- ノンストップ フォワーディング (NSF) : ノンストップ フォワーディング（グレースフルリスタートとも呼ばれる）の詳細については、『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS ユニキャスト ルーティング構成ガイド』を参照してください。
- Embedded Event Manager (EEM; 組み込みイベントマネージャ) : EEM の構成の詳細については、『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS システム管理構成ガイド』を参照してください。
- Smart Call Home : Smart Call Home の構成については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』を参照してください。

物理的な冗長化

Cisco Nexus 9504、9508、9516、および 9800 シャーシには、次の物理的な冗長性があります。

- 電源モジュール
- ファントレイ
- スイッチ ファブリック
- システム コントローラ (Cisco Nexus 9800 にはシステムコントローラは必要ありません)
- スーパーバイザ モジュール

Cisco Nexus 9200、9300、9300 -EX、および 9300-FX プラットフォーム スイッチには、次の物理的な冗長性があります：

- 電源モジュール
- ファントレイ

物理的な冗長性の詳細については、特定の Cisco Nexus 9000 シリーズ シャーシの『ハードウェア 設置ガイド』を参照してください。

電源装置の冗長構成

Cisco Nexus N9K-C9348GC-FXP シャーシは、最大 2 つの AC 電源モジュール（それぞれ最大 350 W を供給）または 2 つの DC 電源モジュール（それぞれ最大 350 W を供給）をサポートします。

Cisco Nexus N9K-C93360YC-FX2 シャーシは、最大 2 つの AC 電源モジュール（それぞれ最大 1200 W を供給）または 2 つの DC 電源モジュール（それぞれ最大 930 W を供給）をサポートします。

Cisco Nexus N9K-C9316D-GX および Cisco Nexus N9K-C93600CD-GX シャーシは、最大 2 つの AC 電源モジュール（それぞれ最大 1100 W を供給）または 2 つの DC 電源モジュール（それぞれ最大 1100 W を供給）をサポートします。

Cisco Nexus 9336C-FX2 および Cisco Nexus 93240YC-FX2 シャーシは、最大 2 つの AC 電源モジュールをサポートします（それぞれ最大 1100 W を供給）。

Cisco Nexus C9364C シャーシは、最大 2 つの AC 電源モジュール（それぞれ最大 1200 W を供給）または 2 つの DC 電源モジュール（それぞれ最大 930 W を供給）をサポートします。

Cisco Nexus 92300YC シャーシは、最大 2 つの AC 電源モジュール（それぞれ最大 650 W を供給）または 2 つの HVDC ユニバーサル電源モジュール（それぞれ最大 1200 W を供給）をサポートします。

Cisco Nexus 9272Q シャーシは最大 2 つの AC 電源モジュールをサポートし、それぞれが最大 1200 W を供給します。Cisco Nexus 9236C、92160YC-X、および 92304QC シャーシは最大 2 つの AC 電源モジュールをサポートします（それぞれ最大 650 W を供給）または 2 つの DC 電源モジュール（それぞれ最大 930 W を供給）をサポートします。

Cisco Nexus 93120TX および 93128TX シャーシは、最大 2 つの AC 電源（それぞれ最大 1200 W を供給）または 2 つの DC 電源（それぞれ最大 930 W を供給）をサポートします。

Cisco Nexus 9332PQ、9372PX/TX/TX-E、および 9396PX/TX シャーシは、最大 2 つの AC 電源モジュール（それぞれ最大 650 W を供給）または 2 つの DC 電源モジュール（それぞれ最大 930 W を供給）をサポートします。

Cisco Nexus 9348GC-FXP シャーシは、最大 2 つの AC 電源モジュールをサポートします（それぞれ最大 350 W を供給）。



(注)

Cisco Nexus N9K-C9348GC-FXP での電源イベントの syslog の動作：このプラットフォームでは、電源ユニット（PSU）から電源が切断された場合、PSUが挿入されたままであっても、システムは『電源<n>が削除された』というメッセージを記録します。PSUがシャーシから物理的に取り外されときには、syslog メッセージは生成されません。この動作は、電源が切断されたときに PSU の SPROM を読み取ることができないというハードウェア設計によるものであり、他の Cisco Nexus プラットフォームとは異なります。

Cisco Nexus 93108TC-EX および 93180YC-EX シャーシは、最大 2 つの AC 電源モジュール（それぞれ最大 650 W を供給）、2 つの DC 電源モジュール（それぞれ最大 930 W を供給する）、または 2 つの HVAC/HVDC ユニバーサル電源（それぞれ最大 1200 W を供給）をサポートします。

Cisco Nexus 93108TC-FX および 93180YC-FX シャーシは、最大 2 つの AC 電源モジュール（それぞれ最大 500 W を供給）、2 つの DC 電源モジュール（それぞれ最大 930 W を供給する）、または 2 つの HVAC/HVDC ユニバーサル電源をサポートします（それぞれ最大 1200 W を供給）。

Cisco Nexus 9504 シャーシは最大 4 台の電源モジュールをサポートし、Cisco Nexus 9508 シャーシは最大 8 台の電源モジュールをサポートし、Cisco Nexus 9516 シャーシは最大 10 台の電源モ

■ シングル PSU モード

ジュールをサポートします。各 9500 プラットフォーム AC または DC 電源モジュールは、最大 3 kW を供給できます。



(注) 交換用の電源には、交換されている電源と同じワット数とへのエアフロー方向をもたなければなりません。同じスイッチで AC、DC、または、HVAC/HVDC 電源を混在させないでください。

電源サブシステムを使用すると、電源モジュールを使用可能な冗長モードのいずれかに構成できます。追加のモジュールを取り付けることで、1 つのモジュールの障害によってシステム動作が中断されないようにすることができます。障害が発生したモジュールは、システムの動作中に交換できます。電源モジュールの取り付けと交換については、特定の Cisco Nexus 9000 シリーズ シャーシの『ハードウェア設置ガイド』を参照してください。

シングル PSU モード

NX- OS リリース 10.6(1)F 以降、特定の Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでシングル PSU モードを設定できます。

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチは、デフォルトで電源の冗長化のために複数の PSU を使用するように設計されています。1 つの PSU に障害が発生した場合、他の PSU が引き継ぎます。シングル PSU モードを有効にすることで、1 台のアクティブな PSU のみを使用して機能するようにスイッチを設定します。

この機能は、外部電源の冗長化メカニズムが設定されている、特定の環境向けに設計されています。

サポートされているスイッチと PSU

シングル PSU モードは、特定の Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチで設定できます。

サポートされている Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチ

- N9K-C9336C-FX2
- N9K-C9348GC-FXP
- N9K-C9332D-GX2B

シャーシLEDの動作

LED	カラー	ステータス
ENV	緑	シングルPSUモードが有効： ファンおよび電源モジュールは通常モードで動作しています。緑色の点灯は、シングルPSUモードが有効であることを示します。
	オレンジ	シングルPSUモードが無効： 少なくとも1個のファンまたは電源モジュールが動作していません。

シングルPSUモードの設定

シングルPSUモードはデフォルトでは有効になっていません。CLIコマンドを使用して明示的にイネーブルにする必要があります。

手順

ステップ1 シングルPSUモードを有効にするには

例：

```
switch(config)# hardware psu mode single
```

ステップ2 シングルPSUモードを無効にするには

例：

```
switch(config)# no hardware psu mode single
```

電源モード

電源冗長モードごとに異なる電力バジェットと割り当てモデルが適用され、使用可能な電力の収量とキャパシティが異なります。電力バジェット、使用可能容量、計画要件、および冗長構成の詳細については、特定のCisco Nexus 9000シリーズシャーシの『ハードウェア設置ガイド』を参照してください。

次の表に、使用可能な電源モジュールの冗長モードを示します。

ファントレイの冗長性

表 1: 電源冗長モード

冗長性モード	説明
組み合わせた（非冗長）	このモードは電源の冗長性を提供しません。使用可能電力は、すべての電源装置のキャパシティの合計です。
insrc 冗長性（グリッド冗長性）	<p>このモードでは、電源モジュールの半分を1つのグリッドに接続し、残りの半分の電源モジュールを2番目のグリッドに接続すると、グリッドの冗長性が提供されます。使用可能電力は、グリッドを介して使用可能な電力量です。</p> <p>グリッドの冗長性を有効にするには、電源モジュールを正しい電源グリッドスロットに接続する必要があります。たとえば、Cisco Nexus 9508 スイッチでは、スロット 1、2、3、および 4 がグリッド A にあり、スロット 5、6、7、および 8 がグリッド B にあります。グリッド冗長モードを構成して動作させるには、次の手順を実行する必要があります。電源モジュールの半分をグリッド A のスロットに接続し、残りの電源モジュールをグリッド B のスロットに接続します。電源モジュールの電源グリッドスロット割り当ての詳細については、特定の Cisco Nexus 9000 シリーズ プラットフォームの ハードウェア設置ガイド を参照してください。</p>
ps 冗長性（N+1 冗長性）	このモードは、現用系電源装置がダウンした場合に追加の電源装置を提供します。使用可能なすべての電源装置のうちの1つの電源装置は追加の電源装置と見なされ、使用可能な合計電力は現用系電源装置によって供給される量です。

次のいずれかの電源モードを指定するには **power redundancy-mode {combined | insrc_redundant | ps-redundant}** コマンドを使用します。

ファントレイの冗長性

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチには、システムを冷却するための冗長システム ファントレイが含まれています。シャーシごとにサポートされるファントレイの数については、[物理的な冗長化](#) を参照してください。

ファンの速度は可変であり、システム内の ASIC の温度によって異なります。ファンが取り外されたり故障したりすると、他のファンモジュールが高速で動作を開始して、欠落または障害が発生したファンを補うことができます。システムの温度がしきい値を超えると、システムはシャットダウンします。

- ファントレイ内の1つのファンに障害が発生した場合、トレイ内の他のファンのファン速度は増加しません。

- ファントレイ内の複数のファンに障害が発生すると、すべてのファントレイでファン速度が 100% に増加します。
- ファントレイ全体が取り外された場合、他の 2 つのファントレイのファン速度は、トレイが取り外されるとすぐに 100% に増加します。
- 複数のファントレイが取り外され、2 分以内に交換されない場合、デバイスはシャットダウンします。スイッチは、電源の再投入によって回復できます。デバイスが復帰しても、複数のファントレイ障害が検出された場合は、2 分後に再びシャットダウンします。必要に応じて、EEM を使用してこのポリシーを上書きできます。
- ファントレイに障害が発生した場合は、ファントレイを交換するまで、障害が発生したユニットを所定の位置に置いて、適切なエアーフローを確保します。ファントレイはホットスワップ可能ですが、一度に 1 つのファントレイを交換する必要があります。それ以外の場合、複数のファントレイがない場合、デバイスは 2 分後にリブートします。



(注)

1 つのファントレイの交換に時間制限はありませんが、適切なエアーフローを確保するために、できるだけ早くファントレイを交換してください。

スイッチファブリックの冗長性

Cisco NX-OS は、冗長スイッチファブリック モジュールの実装により、スイッチングファブリックの可用性を提供します。単一の Cisco Nexus 9504、9508、または 9516 シャーシを 1 ~ 6 個のスイッチファブリック モジュールで構成してキャパシティと冗長性を確保するか、または Cisco Nexus 9800 を 1 ~ 8 個のスイッチファブリック モジュールで構成してキャパシティと冗長性を確保できます。システムに取り付けられた各ラインカードは、取り付けられたスイッチファブリック モジュールに自動的に接続し、すべての機能を使用します。スイッチファブリック モジュールに障害が発生すると、残りの現用系なスイッチファブリック モジュール間でトラフィックの自動再割り当てとバランシングがトリガーされます。障害が発生したファブリック モジュールを交換すると、このプロセスが逆になります。交換用ファブリック モジュールを挿入してオンラインにすると、取り付けられているすべてのファブリック モジュールにトラフィックが再度再分散され、冗長性が復元されます。

ファブリック モジュールは、ホットスワップ可能です。ホットスワップは一時的にトラフィックを中断させる可能性があります。ファブリック モジュールをホットスワップするときにトラフィックの中止を防ぐには、ファブリック モジュールを取り外す前に **poweroff module slot-number** コマンドを使用し、ファブリック モジュールを再挿入した後に **no poweroff module slot-number** コマンドを使用します。

X9400 ラインカード：カードごとに許可される最大帯域幅を実現するには、4 つのファブリック モジュール スロット（FM2、FM3、FM4、および FM6）内に 4 つのファブリック モジュール（N9K-X9432C-S 用に N9K-C95xx-FM-S または、別の X9400 ラインカードには、N9K-C95xx-FM）が必要です。追加のファブリック モジュールは、これらのラインカードに追加の冗長性を提供しません。

■ ラインカードとファブリックモジュールの障害

X9500 ラインカード：カードごとに許可される最大帯域幅を実現するには、偶数のファブリック モジュールスロット (FM2、FM4、および FM6) に 3 つのファブリック モジュール (N9K-C95xx-FM) が必要です。追加のファブリック モジュールは、これらのラインカードに追加の冗長性を提供します。各偶数ファブリック モジュールは、奇数ファブリック モジュールの障害に対して冗長性を提供します (FM2 は FM1 に冗長性を提供し、FM4 は FM3 に冗長性を提供し、FM6 は FM5 に冗長性を提供します)。

X9600 ラインカード：カードごとに許可される最大帯域幅には、6 つのファブリック モジュール (N9K-C95xx-FM) が必要です。

X9600-R ラインカード：N9K-X9636C-R ごとに許可される最大帯域幅には、5 つのファブリック モジュール (N9K-C95xx-FM-R) が必要です。N9K-X9636Q-R ごとに許可される最大帯域幅には、4 つのファブリック モジュール (N9K-C95xx-FM-R) が必要です。追加のファブリック モジュールは、これらのラインカードに追加の冗長性を提供します。N9K-X96136YC-R ラインカードごとに許可される最大帯域幅には、冗長性のために 6 つの N9K-C9504-FM-R ファブリック モジュールが必要です。N9K-X9636C-R (P-100) ごとに許可される最大帯域幅には、5 つのファブリック モジュールが必要です。N9K-X9636-RX ごとに許可される最大帯域幅には、冗長性のために 6 つのファブリック モジュールが必要です。

X9700-FX ラインカード：N9K-X9788TC-FX ごとに許可される最大帯域幅には、2 つのファブリック モジュールが必要です。N9K-X9732C-FX は、5 つのファブリック モジュールで冗長化されています (ファブリック モジュールは 95xx-FM-E または 95xx-FM-E2 のいずれかです)。N9K-X9736C-FX では、最大帯域幅を確保するために 5 つのファブリック モジュールが必要です。N9K-X9736C-FX は、追加のファブリック モジュールと冗長ではありません (ファブリック モジュールは 95xx-FM-E または 95xx-FM-E2 のいずれかです)。ファブリック モジュール 25 は、N9K-X9732C-FX と N9K-X9736C-FX の両方の 5 番目のファブリック モジュールです。シャーシに EX ラインカードがある場合、FM25 の電源はオフになります。



(注) ファブリック モジュールの冗長性を実現するには、N9K-9732C-FX を古いモジュールと混在させないでください。他のモジュールが検出された場合は、ファブリック モジュール 25 の電源がシステムによって切断されます。

ラインカードとファブリックモジュールの障害

ラインカードとファブリック モジュールが故障またはクラッシュするたびに電源をオフにするには、**system module failure-action shutdown** コマンドを使用してカードがリブートしないようにします。このコマンドは、トポロジがネットワーク レベルの冗長性を実現するように設定されており、ラインカードまたはファブリック モジュールが起動しようとしているためにネットワークで 2 回目の中断が発生しないようにする場合に役立ちます。

show module module コマンドを使用すると、ラインカードの電源がオフになっていることを確認できます。必要に応じて、**no poweroff module module** コマンドを使用して、モジュール (ファブリックまたはライン カード) を手動でバックアップします。

```
switch(config)# system module failure-action shutdown
2014 Sep 8 23:31:51 switch %$ VDC-1 %% %SYSMGR-SLOT1-2-SERVICE_CRASHED:
Service "ipfib" (PID 2558) hasn't caught signal 11 (core will be saved).
```

```

2014 Sep 8 23:32:25 switch %% VDC-1 %% %PLATFORM-2-MOD_PWRDN:
Module 1 powered down (Serial number SAL1815Q1DP)

switch(config)# show module 1
Mod Ports Module-Type Model Status
--- -----
1 52 48x1/10G-T 4x40G Ethernet Module N9K-X9564TX powered-dn

switch(config)# no poweroff module 1
2014 Sep 8 23:34:31 switch %% VDC-1 %% %PLATFORM-2-PFM_MODULE_POWER_ON:
Manual power-on of Module 1 from Command Line Interface

2014 Sep 8 23:34:31 switch %% VDC-1 %% %PLATFORM-2-MOD_DETECT:
Module 1 detected (Serial number SAL1815Q1DP) Module-Type 48x1/10G-T
4x40G Ethernet Module Model N9K-X9564TX

2014 Sep 8 23:34:31 switch %% VDC-1 %% %PLATFORM-2-MOD_PWRUP:
Module 1 powered up (Serial number SAL1815Q1DP)

```

システムコントローラの冗長性

スーパーバイザモジュールからの Cisco Nexus 9504、9508 と 9516 シャーシオフロードシャーシ管理機能の二つの冗長システムコントローラこれらのコントローラは電源とファントレイの管理を行うほか、スーパーバイザ、ファブリックモジュール、およびラインカード間のギガビットイーサネットアウトオブバンドチャネル (EOBC) において中心的な役割を務めます。

スーパーバイザモジュールの冗長性

Cisco Nexus 9504、9508、および 9808 シャーシは、コントロールプレーンと管理プレーンに 1+1 の冗長性を提供するデュアルスーパーバイザモジュールをサポートしています。デュアルスーパーバイザ構成は、アクティブ状態またはスタンバイ状態で動作します。この場合、常に 1 つのスーパーバイザモジュールだけが現用系になり、もう 1 つのスーパーバイザモジュールはスタンバイ バックアップとして機能します。スーパーバイザモジュールに障害が発生した場合にステートフルスイッチオーバーを提供するために、2 つのスーパーバイザモジュール間でステートと構成の同期が常に維持されます。

Cisco NX-OS 汎用オンライン診断 (GOLD) サブシステムとスーパーバイザ上の追加のモニタリングプロセスは、プロセスが回復不能な重大な障害、サービス再起動可能性エラー、カーネルエラー、またはハードウェア障害を検出すると、冗長スーパーバイザへのステートフルフェールオーバーをトリガーします。

スーパーバイザレベルの回復不能な障害が発生すると、現在アクティブで障害が発生したスーパーバイザがスイッチオーバーをトリガーします。スタンバイ スーパーバイザが新しいアクティブスーパーバイザになり、障害が発生したスーパーバイザがリロードされている間、同期状態と構成を使用します。障害が発生したスーパーバイザがリロードして自己診断に合格できる場合、初期化されて新しいスタンバイ スーパーバイザになり、その動作状態を新しく現用系になったユニットと同期します。

■ スーパーバイザモジュール

スーパーバイザモジュール

Cisco Nexus 9500 シリーズスイッチでは、スーパーバイザ A (SUP A) とスーパーバイザ B (SUP B) の2つのスーパーバイザモジュールを使用できます。次の表に、二つのモジュールの相違点を示します。

	スーパーバイザ A	スーパーバイザ B	スーパーバイザ A+	スーパーバイザ B+
CPU	4コア、1.8 GHz	6コア、2.1 GHz	4コア、1.8 GHz	6コア、1.9 GHz
メモリ	16 GB	24 GB	16 GB	32 GB
SSDストレージ	64 GB	256 GB	256 GB	256 GB
ソフトウェアリリース	6.1 (2) I1 (1) 以降のリリース	6.1 (2) I3 (1) 以降のリリース	7.0(3)I7(1)	7.0(3)I7(1)

SUP A と SUP B には互換性がないため、移行目的を除き、同じシャーシにインストールしないでください。デュアルスーパーバイザシステムの場合は、スーパーバイザモジュールの冗長性を確保するために、2つの SUP A モジュールまたは2つの SUP B モジュールのいずれか（および2つの組み合わせではなく）を取り付ける必要があります。

デュアルスーパーバイザシステムでは、Cisco NX-OS は現用系スーパーバイザとスタンバイスーパーバイザの両方のメモリサイズをチェックします。スーパーバイザごとにメモリサイズが異なる場合（SUP A と SUP B の両方がインストールされているため）、SUP A を2番目の SUP B と交換するように指示するメッセージが表示されます。

SUP A から SUP B に移行するには、SUP B をデバイスに挿入し、**system switchover** コマンドを入力します。SUP B が現用系スーパーバイザになり、SUP A がスタンバイスーパーバイザになりますが、これはサポートされている構成ではありません。SUP A を取り外すか、2番目の SUP B と交換するまで、警告メッセージが1時間ごとに表示されます。

Nexus 9800 スイッチで使用可能なスーパーバイザモジュール SUP A は、Nexus 9500 のスーパーバイザモジュールと互換性がありません。

次の表に、9800 スーパーバイザ A に関する情報を示します。

	9800 スーパーバイザ A
CPU	9808 の場合は 8コア、9804 の場合は 4コア、2.4 GHz
メモリ	32 GB
SSDストレージ	128 GB

9800 スーパーバイザ A	
ソフトウェアリリース	<p>10.4 (1) F の N9K-C9808 (注) Cisco NX-OS リリース 10.4 (1) F から Nexus 9808 での冗長 SUP サポートが追加されました。</p> <p>10.4 (2) F の N9K-C9804 (注) Nexus 9800 のデュアル SUP 展開では、EPLD アップグレードを実行する必要があります。詳細については、「Cisco Nexus 9000 シリーズ FPGA/EPLD アップグレードリリース ノート」を参照してください。</p> <p>Nexus 9800 モジュラスイッチをシングルスупーバイザ展開からデュアルスупーバイザ展開に移行する際の段階的な手順と重要な考慮事項については、「Nexus 9800 モジュラスイッチのデュアルスупーバイザへの移行」を参照してください。</p>

ファブリック モジュールとライン カードの互換性

- Cisco Nexus 9500 プラットフォームスイッチは、シャーシごとに 1 つのタイプのファブリック モジュールのみをサポートします。Cisco Nexus 9500 プラットフォームシャーシで N9K-C95xx-FM、N9K-C95xx-FM-E、N9K-C95xx-FM-R、および N9K-C95xx-FM-S ファブリック モジュールを混在させないでください。
- 次のファブリック モジュールとライン カードの組み合わせのみがサポートされます：

ファブリック モジュール	サポートされるライン カード
N9K-C95xx-FM	X9400、X9500、および X9600 ライン カード (N9K-X9432C-S ライン カードを除く)
N9K-C95xx-FM-E	X9700-EX および X9700-FX ライン カードのみ
N9K-C95xx-FM-R	N9K-X9600-R ライン カードのみ
N9K-C95xx-FM-S	N9K-X9432C-S ライン カードのみ

スーパーバイザの再起動とスイッチオーバー

シングルスーパーバイザ上の再起動

スーパーバイザが1つしかないシステムでは、すべてのHAポリシーがサービスの再起動に失敗すると、スーパーバイザが再起動します。スーパーバイザとすべてのサービスがリセットされ、以前の状態情報なしで開始されます。

デュアルスーパーバイザ上の再起動

デュアルスーパーバイザを備えたシステムでスーパーバイザレベルの障害が発生すると、システムマネージャはステートフル動作を維持するために再起動ではなくスイッチオーバーを実行します。ただし、場合によっては、障害発生時にスイッチオーバーを実行できないことがあります。たとえば、スタンバイスーパーバイザモジュールが安定したスタンバイ状態にない場合、スイッチオーバーではなく再起動が実行されます。

デュアルスーパーバイザでのスイッチオーバー

デュアルスーパーバイザ構成では、スーパーバイザレベルの障害が発生したときに、ステートフルスイッチオーバー(SSO)を備えたノンストップフォワーディング(NSF)が可能です。2つのスーパーバイザは現用系/スタンバイ機能で動作し、常に一方のスーパーバイザモジュールだけが現用系になり、もう一方がスタンバイバックアップとして機能します。2つのスーパーバイザは、現用系なスーパーバイザモジュールに障害が発生した場合に、ほとんどのサービスのシームレスでステートフルなスイッチオーバーを提供するために、常に状態と構成を同期します。

スイッチオーバー特性

HAスイッチオーバーには次の特性があります。

- ・制御トラフィックは影響を受けないため、ステートフル(中断なし)です。
- ・スイッチングモジュールは影響を受けないため、データトラフィックは中断されません。
- ・スイッチングモジュールはリセットされません。

スイッチオーバー メカニズム

スイッチオーバーは、次の2つのメカニズムのいずれかによって発生します：

- ・現用系スーパーバイザモジュールに障害が発生すると、スタンバイスーパーバイザモジュールが自動的に引き継ぎます。
- ・現用系スーパーバイザモジュールからスタンバイスーパーバイザモジュールへのスイッチオーバーは手動で開始します。

スイッチオーバー プロセスが開始されると、安定したスタンバイ スーパーバイザ モジュールが使用可能になるまで、同じスイッチで別のスイッチオーバープロセスを開始することはできません。

スイッチオーバーの失敗

スーパーバイザのスイッチオーバーは通常、ヒットレスであり、トライフィック損失なしで発生します。何らかの理由でスイッチオーバーが正常に完了しない場合、スーパーバイザはリセットされます。リセットにより、スイッチオーバー中にネットワーク トポロジが変更された場合に、レイヤ2ネットワークのループが防止されます。この回復機能のパフォーマンスを最適化するために、スパンニングツリー プロトコル (STP) のデフォルト タイマーを変更しないことを推奨します。

20分以内にシステムによって開始されたスイッチオーバーが3回発生した場合、スイッチオーバーの循環を防ぐために、すべての非スーパーバイザモジュールがシャットダウンされます。スーパーバイザは、スイッチをリセットする前にシステムログを収集できるように動作し続けます。

スイッチオーバーの手動による起動

現用系スーパーバイザモジュールからスタンバイ スーパーバイザモジュールへのスイッチオーバーを手動で開始するには、**system switchover** コマンドを使用します。このコマンドを実行した後は、安定したスタンバイ スーパーバイザモジュールが使用可能になるまで、同じシステムで別のスイッチオーバー プロセスを開始できません。



(注) スタンバイ スーパーバイザモジュールが安定した状態 (HA スタンバイ) でない場合、手動で開始されたスイッチオーバーは実行されません。

HA スイッチオーバーが可能であることを確認するには、**show system redundancy status** コマンドまたは**show module** コマンドを使用します。コマンドの出力にスタンバイ スーパーバイザモジュールの HA スタンバイ状態が表示された場合は、手動でスイッチオーバーを開始できます。

スイッチオーバーのガイドライン

スイッチオーバーを実行する場合は、次の注意事項に従ってください。

- スイッチオーバーを手動で開始すると、ただちに開始されます。
- スイッチオーバーは、スイッチで2つのスーパーバイザモジュールが機能している場合にのみ実行できます。
- シャーシ内のモジュールが機能している必要があります。

スイッチオーバーの可能性の確認

スイッチオーバーの可能性の確認

ここでは、スイッチオーバーの前にスイッチとモジュールのステータスを確認する方法について説明します。

- **show system redundancy status** コマンドを使用して、システムがスイッチオーバーを受け入れる準備ができていることを確認します。
- モジュールのステータス（とプレゼンス）のいつでもを確認するために**show module** コマンドを使用します。**show module** コマンドの出力例を次に示します：

switch# show module				Model	Status
Mod	Ports	Module-Type			
1	32	32p 40G Ethernet Module		N9K-X9432PQ	ok
2	52	48x1/10G SFP+ 4x40G Ethernet Module		N9K-X9564PX	ok
5	52	48x1/10G SFP+ 4x40G Ethernet Module		N9K-X9464PX	ok
6	36	36p 40G Ethernet Module		N9K-X9536PQ	ok
7	36	36p 40G Ethernet Module		N9K-X9536PQ	ok
10	32	32p 40G Ethernet Module		N9K-X9432PQ	ok
11	52	48x1/10G-T 4x40G Ethernet Module		N9K-X9564TX	ok
12	52	48x1/10G-T 4x40G Ethernet Module		N9K-X9464TX	ok
15	52	48x1/10G SFP+ 4x40G Ethernet Module		N9K-X9464PX	ok
21	0	Fabric Module		N9K-C9516-FM	ok
22	0	Fabric Module		N9K-C9516-FM	ok
23	0	Fabric Module		N9K-C9516-FM	ok
24	0	Fabric Module		N9K-C9516-FM	ok
25	0	Fabric Module		N9K-C9516-FM	ok
26	0	Fabric Module		N9K-C9516-FM	ok
27	0	Supervisor Module		N9K-SUP-A	ha-standby
28	0	Supervisor Module		N9K-SUP-A	active *
29	0	System Controller		N9K-SC-A	active
30	0	System Controller		N9K-SC-A	standby
Mod	Sw	Hw	Slot		
1	6.1(2)I3(1)	0.1050	LC1		
2	6.1(2)I3(1)	0.2010	LC2		
5	6.1(2)I3(1)	0.1010	LC5		
6	6.1(2)I3(1)	0.2060	LC6		
7	6.1(2)I3(1)	0.2060	LC7		
10	6.1(2)I3(1)	0.1010	LC10		
11	6.1(2)I3(1)	0.2100	LC11		
12	6.1(2)I3(1)	0.1010	LC12		
15	6.1(2)I3(1)	0.1050	LC15		
21	6.1(2)I3(1)	0.3010	FM1		
22	6.1(2)I3(1)	0.3040	FM2		
23	6.1(2)I3(1)	0.3040	FM3		
24	6.1(2)I3(1)	0.3040	FM4		
25	6.1(2)I3(1)	0.3010	FM5		
26	6.1(2)I3(1)	0.3040	FM6		
27	6.1(2)I3(1)	1.1	SUP1		
28	6.1(2)I3(1)	1.1	SUP2		
29	6.1(2)I3(1)	1.2	SC1		
30	6.1(2)I3(1)	1.2	SC2		
Mod	MAC-Address(es)			Serial-Num	
1	74-26-ac-10-cb-0c to 74-26-ac-10-cb-9f			SAL1817REX2	
2	00-22-bd-fd-93-57 to 00-22-bd-fd-93-9a			SAL1733B92R	
5	74-26-ac-eb-99-0c to 74-26-ac-eb-99-4f			SAL1814PTNM	
6	c0-8c-60-62-60-98 to c0-8c-60-62-61-2b			SAL1812NTG1	

```

7   c0-8c-60-62-5f-70 to c0-8c-60-62-60-03 SAL1812NTFD
10  74-26-ac-e9-32-68 to 74-26-ac-e9-32-fb SAL1811NH4K
11  78-da-6e-74-15-14 to 78-da-6e-74-15-57 SAL1746G7XE
12  74-26-ac-ec-2b-50 to 74-26-ac-ec-2b-93 SAL1816QUQX
15  c0-8c-60-62-a3-b4 to c0-8c-60-62-a3-f7 SAL1816QGX
21  NA SAL1801K507
22  NA SAL1813P9Y2
23  NA SAL1813P9YM
24  NA SAL1813P9Y9
25  NA SAL1801K50F
26  NA SAL1813NZN3
27  c0-67-af-a1-0e-d6 to c0-67-af-a1-0e-e7 SAL1803KWXY
28  c0-67-af-a1-0d-a4 to c0-67-af-a1-0d-b5 SAL1804L578
29  NA SAL1801JU2Z
30  NA SAL1801JU4V

Mod Online Diag Status
-----
1 Pass
2 Pass
5 Pass
6 Pass
7 Pass
10 Pass
11 Pass
12 Pass
15 Pass
21 Pass
22 Pass
23 Pass
24 Pass
25 Pass
26 Pass
27 Pass
28 Pass
29 Pass
30 Pass

```

* this terminal session

出力の Status カラムは、スイッチング モジュールで ok ステータス、スーパーバイザ モジュールで active か HA-standby になっている必要があります。

- **show boot auto-copy** コマンドを使用して、自動コピー機能の構成を確認し、スタンバイ スーパーバイザ モジュールへの自動コピーが進行中かどうかを確認します。 **show boot auto-copy** コマンドの出力例は次のとおりです：

```

switch# show boot auto-copy
Auto-copy feature is enabled

switch# show boot auto-copy list
No file currently being auto-copied

```

■ デュアルスーパーバイザ システムの現用系スーパーバイザ モジュールの交換

デュアルスーパーバイザ システムの現用系スーパーバイザ モジュールの交換

デュアルスーパーバイザ システムでは、現用系スーパーバイザ モジュールを無停止で交換できます。

手順の概要

1. switch # **system switchover**
2. switch# **reload module slot-number force**
3. switch# **copy bootflash:nx-os-image bootflash:nx-os-image**
4. switch# **configure terminal**
5. switch (config)# **boot nxos bootflash:nx-os-image [sup-number]**
6. (任意) switch(config)# **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch # system switchover	スタンバイスーパーバイザへの手動スイッチオーバーを開始します。 (注) スイッチオーバーが完了し、スタンバイスーパーバイザが現用系になるまで待ちます。
ステップ 2	switch# reload module slot-number force	スーパーバイザ モジュールの交換をただちに起動します。 (注) 強制的にブートしない場合、交換用スーパーバイザ モジュールは、挿入後 6 分でアクティブスーパーバイザ モジュールによってブートされます。スーパーバイザ モジュールの交換については、ご使用の Cisco Nexus 9000 シリーズ シャーシの 『ハードウェア設置ガイド』 を参照してください。
ステップ 3	switch# copy bootflash:nx-os-image bootflash:nx-os-image	現用系スーパーバイザ モジュールからスタンバイスーパーバイザ モジュールに nx-os イメージをコピーします。
ステップ 4	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ5	switch (config)# boot nxos bootflash:nx-os-image [sup-number]	スタンバイスーパーバイザブート変数を構成します。
ステップ6	(任意) switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

例

次に、デュアルスーパーバイザシステムで現用系スーパーバイザモジュールを交換する例を示します。

```

switch# system switchover
Raw time read from Hardware Clock: Y=2013 M=2 D=2 07:35:48
writing reset reason 7,

NX9 SUP Ver 3.17.0
Serial Port Parameters from CMOS
PMCON_1: 0x200
PMCON_2: 0x0
PMCON_3: 0x3a
PM1_STS: 0x1
Performing Memory Detection and Testing
Testing 1 DRAM Patterns
Total mem found : 4096 MB
Memory test complete.
NumCpus = 2.
Status 61: PCI DEVICES Enumeration Started
Status 62: PCI DEVICES Enumeration Ended
Status 9F: Dispatching Drivers
Status 9E: IOFPGA Found
Status 9A: Booting From Primary ROM
Status 98: Found Cisco IDE
Status 98: Found Cisco IDE
Status 90: Loading Boot Loader
Reset Reason Registers: 0x1 0x10
Filesystem type is ext2fs, partition type 0x83
Filesystem type is ext2fs, partition type 0x83

GNU GRUB version 0.97

Loader Version 3.17.0

current standby sup
-----
switch(standby)# 2014 Aug 2 07:35:46 switch %% VDC-1 %% %KERN-2-SYSTEM_MSG: Switchover
started by redundancy driver - kernel
2014 Aug 2 07:35:47 switch %% VDC-1 %% %SYSMGR-2-HASWITCHOVER_PRE_START: This supervisor
is becoming active (pre-start phase).
2014 Aug 2 07:35:47 switch %% VDC-1 %% %SYSMGR-2-HASWITCHOVER_START: This supervisor
is becoming active.
2014 Aug 2 07:35:48 switch %% VDC-1 %% %SYSMGR-2-SWITCHOVER_OVER: Switchover completed.

switch# reload module 27 force

```

デュアルスーパーバイザ システムのスタンバイ スーパーバイザ モジュールの交換

```
switch# copy bootflash:n9000-dk9.6.1.2.I3.1.bin bootflash:n9000-dk9.6.1.2.I3.1.bin
switch# config terminal
switch# boot nxos bootflash:n9000-dk9.6.1.2.I3.1.bin sup-1
switch# copy running-config startup-config
```

デュアルスーパーバイザ システムのスタンバイ スーパーバイザ モジュールの交換

デュアルスーパーバイザ システムでは、スタンバイ スーパーバイザ モジュールを中断なく交換できます。

手順の概要

1. switch# **reload module slot-number force**
2. switch# **copy bootflash:*nx-os-image* bootflash:*nx-os-image***
3. switch# **configure terminal**
4. switch (config)# **boot nxos bootflash:*nx-os-image* [sup-number]**
5. (任意) switch(config)# **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	switch# reload module slot-number force	スーパーバイザ モジュールの交換をただちに起動します。 (注) 強制的にブートしない場合、交換用スーパーバイザ モジュールは、挿入後 6 分でアクティブスーパーバイザ モジュールによってブートされます。スーパーバイザ モジュールの交換については、ご使用の Cisco Nexus 9000 シリーズ シャーシの『 ハードウェア設置ガイド 』を参照してください。
ステップ2	switch# copy bootflash:<i>nx-os-image</i> bootflash:<i>nx-os-image</i>	現用系スーパーバイザ モジュールからスタンバイスーパーバイザ モジュールに nx-os イメージをコピーします。
ステップ3	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ4	switch (config)# boot nxos bootflash:<i>nx-os-image</i> [sup-number]	スタンバイ スーパーバイザ ブート変数を構成します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ5	(任意) switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリストート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

例

次に、デュアルスーパーバイザ システムでスタンバイ スーパーバイザ モジュールを交換する例を示します。

```
switch# reload module 27 force
switch# copy bootflash:n9000-dk9.6.1.2.I3.1.bin bootflash:n9000-dk9.6.1.2.I3.1.bin
switch# config terminal
switch# boot nxos bootflash:n9000-dk9.6.1.2.I3.1.bin sup-1
switch# copy running-config startup-config
```

HAステータス情報の表示

システムの HA ステータスを表示するには、**show system redundancy status** コマンドを使用します。

```
switch# show system redundancy status
Redundancy mode
-----
      administrative:  HA
      operational:    HA
This supervisor (sup-1)
-----
      Redundancy state: Active
      Supervisor state: Active
      Internal state:   Active with HA standby
Other supervisor (sup-2)
-----
      Redundancy state: Standby
      Supervisor state: HA standby
      Internal state:   HA standby
```

次の条件は、自動同期が可能な場合を示します：

- 1つのスーパーバイザ モジュールの内部状態が HA スタンバイで現用系であり、もう一方のスーパーバイザ モジュールが ha-standby である場合、システムは動作上 HA であり、自動同期を実行できます。
- いずれかのスーパーバイザ モジュールの内部状態が none の場合、システムは自動同期を実行できません。

次の表に、冗長状態の使用可能な値を示します。

HA ステータス情報の表示

表 2:冗長状態

状態	説明
なし	スーパーバイザ モジュールが存在しないか、シャーシに接続されていません。
初期化中	この診断が合格し、構成がダウンロードされています。
アクティブ	アクティブなスーパーバイザ モジュールとスイッチを構成できます。
スタンバイ	スイッチオーバーが可能です。
失敗	システムは初期化中にスーパーバイザ モジュールの障害を検出しました。スイッチはモジュールの電源の再投入を 3 回自動的に試します。3 回目の試行後は、引き続き失敗状態が表示されます。
オフライン	スーパーバイザ モジュールは、デバッグのために意図的にシャットダウンされます。
BIOS で	システムはスーパーバイザ モジュールとの接続を確立し、ブートアップ診断を実行しています。
不明 (Unknown)	システムは無効な状態です。問題が解決しない場合は、TAC にお問い合わせください。

次の表に、スーパーバイザ モジュール状態の使用可能な値を示します。

表 3:スーパーバイザの状態

状態	説明
アクティブ	スイッチ内の現用系スーパーバイザ モジュールは、構成できます。
HA スタンバイ	スイッチオーバーが可能です。
オフライン	システムは、デバッグのために意図的にシャットダウンされます。
不明 (Unknown)	システムが無効な状態であり、TAC へのサポートコールが必要です。

次の表に、内部冗長状態の使用可能な値を示します。

表 4:内部状態

状態	説明
HA スタンバイ	スタンバイ状態のスーパーバイザ モジュール内の HA スイッチオーバーメカニズムで有効です。
スタンバイなしで有効です	スイッチオーバーは不可能です。

状態	説明
HA スタンバイで有効です	スイッチ内の現用系スーパーバイザ モジュールは、構成できます。スタンバイスーパーバイザ モジュールが HA スタンバイ状態です。
シャットダウン	システムがシャットダウンしています。
HA スイッチオーバーが進行中です	システムはアクティブ状態に移行中です。
オフライン	システムは、デバッグのために意図的にシャットダウンされます。
HA 同期が進行中です。	スタンバイスーパーバイザ モジュールは、その状態をアクティブスーパーバイザ モジュールと同期中です。
スタンバイ（失敗）	スタンバイスーパーバイザ モジュールが機能していない。
スタンバイなしで無効です	アクティブスーパーバイザ モジュールと 2 番目のスーパーバイザ モジュールが存在するが、2 番目のスーパーバイザ モジュールが機能していない。
Other	このシステムは、一時的なステートです。問題が解決しない場合は、TAC にお問い合わせください。

システム レベル高可用性に関する追加情報

ここでは、システム レベルの高可用性に関する追加情報について説明します。

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
ハードウェア	『Cisco Nexus 9000 シリーズ ハードウェア設置ガイド』
電源モードの構成と Cisco NX-OS の基本	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Fundamentals Configuration Guide』
ノンストップ フォワーディング (NSF)	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Unicast Routing Configuration Guide』
インサービス ソフトウェアアップグレード (ISSU)	『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS ソフトウェアおよびダウングレード ガイド』
EEM と Smart Call Home	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』
ライセンス	『Cisco NX-OS Licensing Guide』

MIB

MIB	MIB のリンク
システム レベルの高可用性に関する MIB	MIB の詳細と最新の MIB リンクからの MIB のダウントロードについては、Cisco Nexus 7000 シリーズと 9000 シリーズ MIB クイック リファレンスを参照します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。